

【写真】海保ヘリによる防波堤の孤立者救助訓練



その時

0.01%の確率でも
能登半島地震は発生した。
災害は、いつか必ず起こるもの
その時—
大切な命を守るために
被害を最小限にするために
あの教訓を忘れることなく
常に「心の防災」を—。

PhotoReport 第2回能登町防災総合訓練

大地震と大雨洪水を想定
訓練に千人が参加

平成19年3月25日、午前9時41分58秒に発生した能登半島地震から2年7カ月、2回目となる大規模防災訓練「第2回能登町防災総合訓練」が10月18日、宇出津新港で実施された。

訓練には、県、警察、消防などの関係機関のほか、消防団、女性防火クラブや地域住民など約千人が参加し、災害時の備えや対応について確認した。

『午前7時ごろから局地的な大雨、午前9時には能登半島沖を震源とする震度6強の地震が発生。沿岸には津波警報が発令された』

午前8時30分、町長は災害対策本部を設置し、関係機関に出勤を要請。現地対策本部が設置された宇出津新港では、関係機関からの被害状況や訓練経過が次々と報告された。

「忘災」にはいけない教訓

防災対策で最も大切なことは、災害の記憶を風化させないこと。わたしたちは、能登半島地震の教訓を決して「忘災」にはいけない。

大規模災害の発生を防ぐことはできなくても、被害を最小限にとどめることはできる。日ごろから高い防災意識を継続することが大切だ。



自助 (自分を守る)

- ①地域住民や地元高校生などが参加したバケツリレー消火訓練。一丸となってバケツを運び火を消した。
- ②地震体験車コーナーでは、地震の揺れを体感できた。
- ③消火器を使った初期消火訓練。火元を扱うことが多い女性が訓練に参加していた。

- ④中高層ビルからの救出を想定した訓練。消防署員が手際よくはしごを使って救出した。
- ⑤車両多重事故救出訓練では、車体を切断して運転手を救出。
- ⑥医療救護所となったエアテント内では、宇出津病院医療チームが次々と運ばれる患者に応急手当をして救急隊に引き渡した。



公助 (命を守る)



- ⑦訓練を締めくくった消防団の一斉放水。16分団がそれぞれ火消しの心意気を見せた。
- ⑧水防訓練では、消防団員と役場職員が土のうを作って積み上げる訓練を行った。

協助 (地域を守る)